



旧中浜小学校



今も当時のままになっている避難していた屋上の倉庫

行ってまいりました 東北の風復興応援ツアー

⑥

東日本大震災から4年が経過。東北復興の今を伝えるラジオ番組が始まって2年。今年も東北へ応援ツアーに出掛けようと、5月24、25の1泊2日で行ってまいりました。今

回、初日は①渡波地区で食事②女川地区で公園整備お手伝い③大川小見学④川の上・百俵館図書館にて図書のご呈、復興祈願手筒花火。翌日は⑤磯浜漁港・宮城県漁業仙南支所山元



やしのみっくす
YashinoMIX 126

船主会訪問・漁船乗船
⑥旧中浜小学校見学⑦山元町旬魚酒房・金八で食事⑧山元町いちご団地・夢いちごの郷友の会訪問、いちご狩り⑧巨理温泉・鳥の海で入浴...と、分刻みのスケジュールでした。このコラムでは数回に分けてご紹介していきます。

ツアー2日目、私たちは仙台から南下し、福島県との県境に近い小さな町、山元(やまもと)町へ。磯浜の海から、津波の大きな傷跡を今もそのままに残してある旧中浜小学校が見えました。漁港を後にした私たちは、町役場の職員立会いの下、その小学校へ向か



山元町教育委員会学務課長の菅野寛俊さんと同町役場総務課の伊藤和彦さん(左から4人目)と山元町教育委員会学務課の伊藤和彦さん(同3人目)

いきました。この旧中浜小学校に避難した児童・教員・地域の人、全員が助かっています。

◇

海の手すぐ近くにあるこの小学校は第1避難所。第2避難所は山下中学校に指定されていましたが、当時大津波警報がすでに発表されており、山下中学校まで徒歩で20分。とても児童の足では間に合わないと判断した校長先生の指示で全員屋上の倉庫へ避難。第1波、2波、3波と次々と襲いかかる津波は2階建て校舎の天井を超える高さまで到達。屋上か

ら様子を見ていた先生は、大きな木の高さをはるかに超える第4波を確認し「もうだめだ」と思ったそうです。

◇

しかし、3波までの引き波とぶつかりそのエネルギーは減少。助かったんです。とはいえ、校舎の中は悲惨な状況で、いろいろなものがぶつかり、はがれ、引きちぎられ...。不気味な音のなかでひたすら耐える恐怖は計り知れません。

◇

この学校を見学するのは今回3回目です。このコラムに書くのも3回目。人の記憶力は

◇

2日目のお昼は山元町でも評判の旬魚酒房金八さんへ。その土地で人気のお店情報も重要！山元町役場のすぐ近くにあり、臨時災害エフエム放送りんごラジオさんからも太鼓判が押されたお店。皆さんも山元町へお出掛けの際はぜひ。

◇

曖昧(あいまい)です。被害状況を見ても、体験したわけではないので忘れてしまいます。何度も足を運び、体験者の話を聞き、自分にとっての備えにつながるのではないかと思っています。

◇

そしてもう一つ、助かった子どもたちの教育に役立てていただくこと、応援金を20万円贈呈。募金箱設置協力店のかぐやひめさん、喜聞屋さん、ハワイアン7スタイルさんで集められた応援金、そして参加者さんからも応援金が贈られました。

◇

東北の風復興応援ツアー
協賛企業・加山興業、夢コーポレーション、東海交通、豊橋ケールネットワーク、ティビー、倉橋健二税理士事務所、東海食膳協業組合、西田メディアカルクリニク、サイラコーポレーション、中部ガス、サーラ住宅、中部、鈴木組、ガステックサービス、中部ガス不動産

◇

募金箱設置協力店：かぐやひめ、喜聞屋、ハワイアン7スタイル、たぬー、たこ蔵(文)パーソナリティー・西村なぎさ

◇

【西村なぎさ(にしむらなぎさ)】
豊橋生まれ、豊橋育ち。エフエム豊橋で営業とパーソナリティーを兼務。こくなつふらいでえ16~19時担当。イベント司会もやります。

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

第3回エフエム豊橋

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに

◇

被災地訪問が災害の備えに